

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和7年度 第1回松阪市図書館協議会
2. 開 催 日 時	令和7年6月30日（月） 午前10時00分～午前11時30分
3. 開 催 場 所	松阪図書館 2階 講座室
4. 出席者氏名	（委 員） ◎辻淳子、○中村陽子、相口学、阿波扶美子、小野家代子、西岡尚子、鈴木美保、西岡裕子、新良公子、濱田和男、山中数子、横山みち代 （◎会長 ○副会長） （事務局） 松阪市図書館館長（株式会社図書館流通センター） 松岡 生涯学習課長 小泉 生涯学習課長補佐 山本 生涯学習係長 杉田 生涯学習係主任 笠原 生涯学習係 森岡
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 生涯学習課 TEL 0598-53-4396 FAX 0598-26-8816 e-mail ikig.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項・議事録
別紙

令和 7 年度 第 1 回松阪市図書館協議会 議事録

○開催日時:令和 7 年 6 月 30 日(月)午前 10 時 00 分から午前 11 時 30 分

○開催場所:松阪図書館 2 階 講座室

○議題

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 自己紹介
4. 協議事項
 - ①令和 6 年度松阪市図書館実績報告について
 - ②松阪図書館指定管理について
 - ③その他
 - ・三雲みんなの図書館コミュカル及び飯高管内地域開放型図書館の実績報告について
 - ④意見交換・提言等
5. 閉会

○出席者氏名

【委 員】辻淳子、中村陽子、相口学、阿波扶美子、小野家代子、西岡尚子、鈴木美保、
西岡裕子、新良公子、濱田和男、山中数子、横山みち代
計 12 名

【事務局】松阪市図書館館長(株式会社図書館流通センター) 松岡

生涯学習課長	小泉
生涯学習課長補佐	山本
生涯学習係長	杉田
生涯学習係主任	笠原
生涯学習係	森岡

●会長あいさつ

会長：今年度は指定管理における大きな課題もありますので、皆さんの意見を頂戴して、よりよい図書館にしていきたいと思います。いろいろご意見いただきたいと思いますので、今日もどうぞよろしくお願いします。最近では世界各地で様々なことが起こっております。これからの日本や地球はどうなっていくのか不安に思うことがあります。いつまでも豊かな日本であってほしいと思いますし、気温も高く、外で遊ぶことができないような子供達が、図書館で素敵な本を読んで、心豊かに育ってほしいと思いますので、ご意見をお願いします。よろしくお願いします。

●協議事項

①令和 6 年度松阪市図書館実績報告について

館長・事務局：令和 6 年度松阪市図書館実績について、ご説明します。

（資料に基づき、館長・事務局から説明

内容…図書館利用統計、資料区分別貸出冊数、利用状況、定例行事・特別行事、テーマ・展示本コーナー、飯南・飯高地区貸出統計、電子図書館実績）

委員長：様々な事業についてご説明いただきました。非常に子供たちのことを考えていただいて、図書館をよりよい場所にするために努力していただいています。本当にありがたいことだと思いますが、委員の皆さんどうでしょうか。何かご質問等、もう少し深く聞いてみたいことがございましたらご意見いただきたいのですが、いかがでしょうか。

委員：電子教材は、やはり行きず戻れずして読むことが難しいと思います。もしかしたらできるかもしれませんが、付箋をつけて戻ることやアンダーラインを引くことも同じです。もちろん図書館で借りるものはできませんが、自身が購入した時にはアンダーラインを引きながら読んでいきます。電子図書にはこういった側面もありデメリットの一つであると思います。その一方で、いろいろと図書館の電子図書のリストを見せてもらいますと、オーディオブックがあります。これは専門的な介入によってイメージの広がりやまだたくさんできるなと思いました。他にも源氏物語も電子図書になっており、愛着の幅が広がっていくのではないかと思います。それから社会科学が多く、難しい本は電子書籍の場合読むのが大変だと思います。そういった本は映像を出したらおもしろいだろうし、これから動画で出てきたりするのではないかと思います。このように利用者向けにサービスを考えていただければと思います。電子図書、紙媒体の使い分けというところを十分考えていただければと思います。全然事例は違いますが、子供

たちの学力状況調査によると、デジタル教材を使えば使うほど学力は落ちていきます。デジタル教材は30分以内がベストだというデータが出ています。スウェーデンでは改めてデジタル教科書を見直そうという動きが進んでいます。子供に限らず大人にも重なる部分はあると思いますので、このことを考慮したうえで電子書籍の整備をしていただけたらと思います。

委員：資料6の電子書籍の実績にあげていただいているということは、最初の図書館利用の統計の冊数には、電子図書は含まれていないということでしょうか。

館長：電子図書は別で統計を出しておりますので先程の貸出冊数には含まれておりません。

副委員長：児童図書の貸出数の減少が激しいことが非常に驚きました。前年度と比較すると児童図書が減っています。これは少子化が原因であるのか、図書館に連れてくる親御さんがお忙しいのか、若者の図書館離れが進んでいると言われていますが、そういったことが原因なののでしょうか。どのようなお考えかお聞かせください。

館長：貸出数を見ると減っていますが、実際来館される親子はたくさん見えています。コロナの影響で少し下がって今ゆっくり戻りつつあるのが体感です。今ではたくさん本も借りられていますし、イベントにもご参加いただいております。ただ、小学校高学年、中学生の子供達はティーンズ向けの本を多く借りられているので、それが児童図書の貸出数が減っている要因だと思います。

委員：利用者アンケート結果報告書の図書館の施設設備について関係することです。お話キャラバンのメンバーから話を聞きました。松阪市図書館の近所のお母さんからのお話です。その方は、図書館の近所であるにも関わらず、わざわざ多気の図書館に行かれています。松阪市図書館では、乳幼児の本が読みにくく、借りにくい場所にあるとのことでした。読み聞かせ室に乳幼児向けの本があればありがたいとのことでした。一志図書館、久居ふるさと会館の図書館にも読み聞かせする部屋があり、そこでは読みやすいです。松阪市図書館は以前は乳幼児向けの本は読み聞かせ室にあり、当時小さい子供を連れてのんびり読書ができました。施設のスペース上、難しいかと思いますが、ご検討をぜひよろしくお願いします。

委員：私たち子供達の読み聞かせの活動をしているのですが、SNS で図書館から発信していることはあるのでしょうか。例えば、図書館の方で読み聞かせを配信する等のことに関してです。

館長：今現在そういった配信は行っておりません。Facebook で新刊が入ったことをお知らせする程度でございます。

委員：例えば中学生の子供に関しても、図書館に来れる子供、来れない子供もいます。図書館に足を運べない子供に対して朗読を配信するのはいかかでしょうか。スタッフの方が忙しければ、お話キャラバンや私たちの活動を配信していただくなどでもよいと思います。長時間にわたるものは無理だとは思いますが、本のあらすじだけでも配信することは難しいでしょうか。図書館に来れない子供に対してきっかけづくりになればと思います。

館長：持ち帰り検討させていただきます。

委員：私は読み聞かせを行う際には、他の人を参考にするために YouTube やインスタグラムで検索することがあります。しかし、読み聞かせをする側としては、リアルで届けたいというのが本音です。読み聞かせの需要は乳幼児だとは思いますが、親御さんがそれを見せるか見せないかという問題はあると思います。図書館に来れない子供への支援という意味では、電子図書というのはすごくいいなどお話を聞いて思いました。図書館に来なくても図書のカードを使ってログインすれば見る事ができるので、子供達にとってはすごく便利であり、親の送迎が必要なく本が読めるのはすごくいいなと思いました。児童書の貸出が減っているのは、電子図書館に流れている可能性があるのではないかと思いました。子供達に対して登録の仕方、好きな本を選び読むことができるということをアピールしていただくと良いと思います。

委員：電子書籍はあくまで補助的に子供達の興味付けとしてはいいと思いますが、先程の話を聞くと紙媒体より電子図書のほうがいいのでしょうか。

委員：本当は実物の本で読むのがいいと思います。先程お話いただいた学力低下問題の記事を私も読ませてもらいました。ヨーロッパでは脱タブレット、脱 ICT と聞いていますが、タブレットと紙媒体で読むのとでは違うと思います。ただ紙で読む場合と画面で見るときの脳による定着度の違いというのは私も疑問に感じます。それが同じ程度であれば、電子書籍でもいいかとは思いますが。

委員：私も本を読むきっかけとして電子図書を使ってほしいと思います。これは音楽の話ですが、この頃ピアノの伴奏の際、タブレットで楽譜を見ている方がいます。演奏する際にタブレットであれば、スライドするだけでいいので、捲る必要がありません。ですが、タブレットだと書き込みもできませんし、タブレットばかりだと弊害が出てくる可能性もあります。先程言った朗読の配信を見て、本を読みたいと思うことで図書館に足を運ぶきっかけになればいいなと思います。やはり紙が一番いいとは思いますが、タブレットも必要であると納得しました。

委員：確かに配信は大事だとは思いますがしきりなきっかけになると思います。ですが、配信されてても図書館に行かない可能性も考えられます。子供達は興味のあることは自身で探しますが、図書館に興味を持たせ、図書館に来てもらうは大変だと思います。図書館へ来てもらうことに力を注ぐというよりは、学校の方へ行っていただいて、図書館のことを知っていただき、直に子供達に語りかけてもらう方が効果があると思います。館長さんがおっしゃったように児童書の貸出冊数は減っていますが、来館していると土日の子供達の数、親御さんが連れて見える子供の数は体感的に多くなってきています。ですので、数に結びつかないの不思議ですが、数字ばかりにとらわれて悲観するよりかは、今やってもらっていることを地道にやっていくことが大事だと思います。

委員：図書館に呼び込もうというのはとても素晴らしいと思いました。まず本に興味をもってもらうためにこちらから働きかけてもらう方が基本的に必要だと思います。ただ、図書館に来てもらうというだけでは難しいと思います。家庭によっては親の送迎が難しい、親が興味を持っていなかったら触れられないという問題もあります。まずは本を広げるということに興味を持ってもらうことが必要であり、図書館に来てもらうということの前にそういったことも必要だと思います。

委員：図書館に来てもらうという話が出ていたと思いますが、私自身子育て中に図書館のイベントに来ることを一つの楽しみとしていました。今、小学生の方でボランティアをしています。そこで保護者さんの話を聞いてみると、イベントのことを知らない方が大半です。なかなか知る機会がなく、聞かないみたいです。図書館によく行っている方はポスターを見たり、直接図書館の方から教えてもらったりできると思いますが、図書館に行く機会がない方は、イベントを知る機会が少ないのかなというのが自分の実感としてはあります。イベント内容を話すと、「私、それいって見たかった」という意見も聞きますので、保護者さんたちが知れるような場があったらいいなと思いました。

委員：資料 3-2 に記載のある、去年 12 月に開催されたバリアフリー上映会に参加させてもらいました。一昨年にも参加させてもらいましたが、昨年は「かがみの弧城」がよく、保護者さんが子供さんを連れてきた方がたくさん見えました。一昨年の閑散とした感じとは全く違ったのですが、何か発信は変えられたのでしょうか。

館長：こちらの周知が足りなかったというのが一昨年度の反省でありました。従来は図書館だよりを配り、各学校、公民館、保育園等に周知していましたが、昨年はそれ以外にも関わりのあるボランティアセンターや他の関係各所、本読もうネットに告知、広告をお願いしました。様々なところにイベントの周知をすることで興味を持っていただいた方が多かったのではないかと思います。県の視聴覚センターの方にも声をかけさせてもらいましたし、少しずつ広めさせてもらったことが多くの方々への参加へとつながったと思います。これからも、もう少し他に周知の仕方があるかなと思いますので検討していきたいと思います。

②松阪図書館指定管理について

事務局：松阪市図書館指定管理についてご説明します。
(資料に基づき、説明)

委員：指定管理者の工夫によって利用者も増えてきて、専門的な知見があるため、発展してきたと思います。なぜ指定管理なのか改めて確認したいです。

事務局：資格を持った司書の方が充実していることで、来館者が読みたい本を選んで置いてもらっています。市直営の場合、そこまでの支援は難しいと思います。利用者サービスの充実を考えると、指定管理の方が最もいいのではないかと考えています。

委員長：指定管理になる際に、市の方で様々な意見があったと思いますが、市民へ専門的な部分を充実させたいというところが一番だったと思います。17 年近く指定管理をお願いしながら、様々な行事や企画をお願いしていますが、少しずつ内容も充実してきたと思います。

③その他

・三雲みんなの図書館コミカル及び飯高管内地域開放型図書館の実績報告について

事務局：三雲みんなの図書館コミカル及び飯高管内地域開放型図書館」について
ご説明します。
(資料に基づき、説明)

委員：私は飯高ですが、なかなか足を運べていないのが現状です。今年はぜひ少なくとも月一回は足を運んで、司書さんと話をさせていただきたいと思いました。

④意見交換・提言等

事務局：チラシの方で配らせていただきましたが、市政20周年記念ということで松阪もめんを使ったミニ本とカードケースの見本がありますので回させていただきます。ご自身で松阪もめんを使ってミニ本を完成させるワークショップを行います。

委員：カードケースの方で、嬉野図書館で行われて松阪図書館では行われないということですが、提案があります。嬉野図書館までいけない方もいると思います。松阪図書館の方で作り方のカタログをカウンターのところに置くのはどうでしょうか。自分で作ってみたいという方は見えると思いますし、カードケースをご自分で家にある布で作ってもらうのがいいと思うのですが、いかがでしょうか。

委員長：そういった要望もあるかもしれませんので、可能な限りでご検討いただければと思います。

以上 午前11時30分終了